

## 1 教育目標

さとく・・・きいてよくわかる子  
 やさしく・・・すなおで心豊かな子  
 たくましく・・・明るく元気な子

## 2 学校経営の方針

- (1) 知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指し、「生きる力」を備えた児童の育成に努める。  
 (2) 地域との連携を深め、地域の教育力を生かした特色ある学校づくりを推進する。  
 (3) 保護者、地域から信頼される教職員を目指す。

## 3 今年度の努力点 (◎は重点目標)

- (1) 「知」◎基本的な学習態度の育成と基礎的・基本的な知識や技能の習得 ◎「活用する力」を高める教育活動の工夫 ◎一人一人の教育的ニーズに応じた学習支援 ○総合的な学習の時間の充実  
 ○外国語活動の推進 ○図書整理と読書活動の工夫  
 「徳」◎道徳教育の充実「とちぎの子どもたちへの教え～人として、してはならないこと、すべきこと～」の教育活動への位置付け  
 ○人権教育・福祉教育の充実 ◎共感的な児童指導の実践  
 「体」◎体力づくりの推進 ○健康教育・安全教育の充実 ○食育の充実
- (2) ◎地域教育力を生かした教育活動の推進 ◎ふるさと学習の推進 ○地域と学校の協働体制の確立  
 ○家庭・地域・関係機関との連携 ○教育環境の整備 ○安全指導と管理の徹底
- (3) ◎教職員の学校経営への参画と協働 ◎教職員の資質の向上 ○危機管理意識の高揚

## 4 評価

※評価指標の☆は、本年度の重点の評価指標、主な具体的評価指標の★は、本校独自の評価指標

※評価のSは優れている、Aは良い、Bはおおむね満足、Cは要改善（自己評価がCの場合は改善策を記入）

領域	評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
			評価	達成状況(○)と改善策(△)	評価	成果(○)と課題(△)
知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指し、生きる力	◎基本的な学習態度の育成と基礎的・基本的な知識や技能の習得	○「芳賀の子ども学力向上プラン」の推進 ○「学習のきまり」の活用 ○市貝小「学力向上改善プラン」の見直しと実践 ○個に応じた指導や指導体制の工夫(TTの効果的な活用、少人数指導、習熟度別指導の実施)	A	○家庭学習強調週間や家読カードなど家庭との協力を得ながら学力向上を図ることができた。 ○学力向上改善プランを意識して指導に当たることができた。 ○T.Tの指導体制の充実を図ることができ、個に応じた指導ができている。	A	○学校では学習面での課題に対して、具体的な方策を立て取り組んでいる。
	◎「活用する力」を高める教育活動の工夫	○思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実 ○教科目標達成のための言語活動の位置付け ○発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループワーク、討論等の場の設定	B	○朝の学習で行っている「100マス作文」は、回を重ねるごとに書ける文字数が増えた。 △書く文字数が増えても、テーマにより内容が伝わらない作文も見られるので、書くことの習慣化を図るとともに、添削指導を工夫する必要がある。 ○高学年では、グループでの話し合いが成立し、主体的な学習ができつつある。 ○いろいろな体験学習が実施され、学習内容の理解に繋がっている。	B	○活用する力を高めるための具体策がとられている。

を備えた児童の育成	◎一人一人の教育的ニーズに応じた学習支援	○特別支援学級における指導の充実 ○通常の学級における指導の工夫（TTの活用、指導法のユニバーサルデザイン化等）	A	○個別指導が必要な児童の保護者にその旨を伝え、家庭の協力、スクールカウンセラーの紹介等を行うことができた。 ○通常の学級において、教材教具のユニバーサルデザインを意識した指導の工夫改善が見られた。	A	
	○総合的な学習の時間の充実	○課題解決的な学習や探究的な活動の推進、学習成果の発表の場の確保 ○地域素材、地域人材の活用	A	○それぞれの学年で成果の発表の場を工夫している。 △地域素材、地域人材を活用したよい授業は、来年も継続できるようにしておく。	A	○ALTの活用が図られている。
	○外国語活動の推進	○ALTとの連携、ICTの活用 ○体験的なコミュニケーション活動の工夫	B	○ALTとの連携がよく図られ、電子黒板等も活用して児童が楽しく授業に取り組んでいる。 △指導計画の見直し、作成と担任の指導技術の向上に努める。	B	
	○図書の整理と読書活動の工夫	○朝の読書、家読、読書月間、読書集会の実施 ○図書ボランティア（どんぐりクラブ）との連携 ○学校図書館の活用（図書の計画的購入、図書館だよりの発行、委員会活動の充実）	A	○朝の読書にはしっかり取り組んでいる。 ○どんぐりクラブの季節に合わせた本の紹介がよい。 ○読書月間では、児童の意識を高めることができた。 △図書ボランティアの確保を進める。	A	△子どもたちのあいさつはよくできているが、これから地域にも働きかけることが大切である。
	◎道徳教育の充実「とちぎの子どもたちへの教え～人として、してはならないこと、すべきこと～」の教育活動への位置付け	○道徳の時間を核とした道徳的実践力の育成 ○体験活動をととした心の教育の推進 ○「3あ」運動の推進（あいさつ・あつまり・あとしまつ）、「よい子のやくそく」と連動した指導 ○基本的な生活習慣の定着（家庭との連携による生活習慣の確立）	B	○体験活動が実施されている。 ○あいさつ週間の定着が図られ、気持ちよいあいさつができてきている。 ○後始末ができるようになってきた。 △道徳の時間の授業研究を進め、授業力向上に努める。	B	
	◎共感的な児童指導の実践	○「学校いじめ防止基本方針」に基づく積極的な児童指導の実践 ○居がいのある学級経営、児童とのふれあい ○児童一人一人が活躍できる場の設定 ○きめ細かな情報交換による共通理解 ○定期教育相談、いじめアンケートの実施 ○スクールカウンセラー、関係機関との連携	A	○いじめ予防のための年間計画を見直し、実践できた。 ○どの学級も一人一人に活躍の場を与えながら、よい雰囲気学級経営がなされていた。 ○児童に関する情報交換と共通理解が日常的に行われ問題行動の未然防止につながっている。 ○各学級のいじめアンケートの結果を全職員に周知できた。 ○スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー等との連携が図られている。	A	○定期的にいじめアンケートと教育相談が実施されており、今後も継続されるとよい。
	○人権教育・福祉教育の充実	○ふれあいのある学級集団づくり（ソーシャルスキル・トレーニングの活用、各種行事への主体的参加） ○にこにこ班（縦割り班）活動の工夫と充実 ○JRC活動の充実	A	○人権週間、人権集会の内容が工夫され、人権意識の高揚につながった。 ○にこにこの活動では、上級生が下級生の面倒をみて仲良く活動するなど、人間関係づくりに成果が見られた。 △JRC活動の意識付けを図る。	A	△スポーツ推進を家庭と協力して図る必要がある。
	◎体力づくりの推進	○新体力テストの結果を活用した教科体育及び教育活動全体の中での効果的な体力づくりの実践	A	○今年度の結果をもとに課題の改善に向けた提案がされ、体育の時間等で実践できた。 △体力づくりや部活動の加入をすすめるには、家庭の理解と協力が必要である。	A	○避難訓練や防犯教室が計画的に行われていることがよい。
○健康教育・安全教育の充実	○養護教諭と連携した保健指導・健康教育の推進 ○学校保健委員会の活性化 ○家庭・地域・関係機関と連携した各種訓練の定期的実施と危機意識の高揚	A	○集会での養護教諭の指導や保健委員会の児童の発表、保健だよりの発行などにより健康への意識が高まった。 ○関係機関との連携を図りながら内容を工夫して訓練等ができた。 △学校保健委員会の研修会への参加者を増やす工夫が必要である。	A		

	○食育の充実	○栄養教諭と連携した食に関する指導の実施 (給食指導、委員会活動の工夫、学級活動・家庭科等におけるT.Tの参加等)	A	○学級活動等で、栄養教諭と連携した活動が行われている。 ○まるごととちぎ給食は地産地消を伝えられ、食への関心が高まった。 △家庭との連携を進め、朝食の充実や偏食の改善など、食に関する意識の向上に努める。	A	
	外部アンケート	児童	A	保護者	A	○先生は学力向上のためにに工夫し、わかりやすく指導している。また、対応がよく優しく熱心に指導している。
地域との連携を深め、地域の教育力を生かした特色ある学校づくり	○地域教育力を生かした教育活動の推進	○地域人材・地域資源を生かした教育活動の展開 ○学校支援ボランティアの活用と拡充	A	○地域コーディネーターとの連携により地域人材を活用して、充実した活動が展開できた。 ○6年体育のバスケットボールの指導など新しい学校支援ボランティアが拡充できた。	A	○地域連携活動は26年度に引き続きとてもよく行われている。
	○ふるさと学習の推進	○豊かな体験活動の場の設定(発見感動ハイキング、社会科見学、農園活動等) ○総合的な学習の時間、生活科の充実 ○地域の名人等に学ぶ(キャリア教育の視点で) ○地域の祭りや行事への参加奨励	A	○ふるさと学習の全体計画が作成できた。 ○地域の方の学校に対する協力や児童との交流があり、いろいろな活動が定着してきた。	A	
	○地域と学校の協働体制の確立	○地域コーディネーターと地域連携教員との連携 ○情報交流会の実施、ふれあいルームの活用等	A	○地域コーディネーターとの情報交流会が効果的に進められている。	A	
	○家庭・地域・関係機関との連携	○学校行事への参加呼びかけ(保護者・地域) ○情報の発信(各種たより、ホームページ等) ○学校自由参観日の工夫 ○PTA等の活動の充実	A	○自由参観日、学校行事への参加保護者はとても多い。 ○学校だより、ホームページでの情報はよく発信されており、開かれた学校づくりに役立っている。 △保護者会での全体会や学年支部会への参加率を上げるよう内容を工夫する。	A	○学級担任と保護者を結ぶ連絡帳でのやり取りはたいへん役に立っている。
	○教育環境の整備	○環境緑化活動の推進 ○親子奉仕作業、クリーン活動等の実施 ○ボランティア団体との連携(図書、花壇、植木等)	A	○親子奉仕作業での老人クラブの協力で、環境整備は進んでいる。 △クリーン活動の保護者ボランティアを増やす取組をしていく。	A	
	○安全指導と管理の徹底	○関係機関と連携した各種訓練の実施と一斉メール配信等による児童の安全確保 ○安全安心な学校づくりの推進(スクールガードとの連携)	A	○一斉メールが使えないときの連絡方法を見直した。 △スクールガードの登録者を増やす取組が必要である。	A	
	外部アンケート	児童	A	保護者	A	○体験的な学習、地域や保護者と連携した行事が充実している。また、学校支援ボランティアの活動は、子どもたちにとって効果があると思う。 ○授業参観・自由参観、学校だより・学級だより、ホームページで学校を公開している。
保護者、地から信頼される教職員	○教職員の学校経営への参画と協働	○職務内容の明確化と協働体制の確立 ○学校評価、教職員評価制度の活用 ○学校課題の追究	A	○学力向上アドバイザー訪問、要請訪問で研究授業を行い、研修を積み重ねられた。	A	
	○教職員の資質の向上	○校内研修の充実、校外における各種研修会への積極的な参加と成果の活用 ○幼保小交流、小中交流研修の充実	A	○校外における研修内容を教職員に伝達(報告)し、情報の共有が図られた。 △子ども同士の交流事業、教職員の保育・授業参観は有意義であるが、期日調整等が年度初めにできるとよい。	A	
	○危機管理意識の高揚	○危機管理マニュアルの周知と訓練(講読)の実施 ○服務規律の保持(ショート研修、チェックリストの活用) ○報告、連絡、相談、確認の徹底	A	○学校生活における危険防止対策が整備され共通理解が図れた。 △報・連・相・確の徹底を更に進める。	A	○児童の安全確保のためにこれからも様々な訓練の実施をお願いしたい。

外部アンケート	児童	保護者	A	○引き渡し訓練や避難訓練などこれからも継続的に実施してほしい。
---------	----	-----	---	---------------------------------

## 5 学校運営についての意見

内部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着のために、めあての提示と振り返りを継続して実施したり、保護者の理解、協力を得るために、「家庭学習がんばり週間」を継続したりする。</li> <li>・言語活動の充実のために、朝の学習の「100マス作文」を継続して実施する。</li> <li>・3あ運動の推進のために、あつまりの指導を強化する。</li> <li>・地域の教育力を生かした教育活動の推進のために、学校支援ボランティアの連携が効果的と思われる活動や今年度効果的であった活動を洗い出し、「地域資源活用一覧」を見直す。</li> <li>・学校課題の追究のために、学力向上アドバイザー訪問や要請訪問で研究授業を行い研修を積み重ねられた。来年度は研修の成果を生かすとともに、課題の解決に引き続き取り組んでいく。</li> </ul>
児童・保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育環境に関して 校庭、花壇やフラワーロードの整備、教室にエアコンの設置をしてほしい。</li> <li>○児童の様子について あいさつや思いやりの指導や自転車の安全な乗り方の指導をされに充実してほしい。</li> <li>○学校の取組について 授業参観等の土曜日実施、運動会や個人懇談、自由参観日の時期を検討してほしい。</li> <li>○その他 PTA役員の選出方法などを見直してほしい。</li> </ul>
学校関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にいじめアンケートと教育相談が実施されており、今後も継続されるとよい。</li> <li>・あいさつ指導は学校だけでなく家庭・地域でも進めることが大切である。</li> <li>・小さいときから食べることの大切さを指導する必要がある。</li> <li>・通学用のヘルメットについては、今後も継続していくべきである。</li> </ul>

## 5 次年度へ向けて

知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指し、「生きる力」を備えた児童の育成
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学習態度の育成と基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 授業のめあての提示と振り返り、「家庭学習がんばり週間」を継続して実施する。</li> </ul> </li> <li>・「活用する力」を高める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 授業における自分の考えを書く場の設定や、朝の学習での「100マス作文」の継続により、書くことの習慣化を図る。</li> <li>→ 課題解決のための思考力、判断力、表現力を高める指導法の工夫・改善に努める。</li> </ul> </li> <li>・道徳教育の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 職員研修の計画に道徳の授業研究会を入れていく。</li> <li>→ 保護者への授業公開や学年だより等をとおして、道徳的実践力の育成を家庭と連携して行う。</li> </ul> </li> <li>・児童の体力向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 教科体育で楽しく体を動かす方法を取り入れたり、業間の体力づくり、外遊びを奨励したりする。</li> </ul> </li> </ul>
地域との連携を深め、地域の教育力を生かした特色ある学校づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと学習の推進を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 年間指導計画に基づく実践と評価をとおして教職員、児童の意識化を図る。</li> <li>→ 地域の方との交流ができる豊かな体験活動を取り入れる。 地域の名人等に学ぶ活動の充実を図る。</li> </ul> </li> <li>・地域の教育力を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 地域コーディネーターと地域連携教員を核とした情報交流会をとおして、学校のニーズに応じた教育活動への支援が保たれるよう、学校からの情報発信と地域からの情報収集を行う。</li> </ul> </li> </ul>
保護者、地域から信頼される教職員
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の資質の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 学力アッププロジェクトの研究成果を生かし、次年度も児童の学力向上に向けた校内研修を充実させる。</li> <li>→ 学校課題解明のため、教職員一人一人の日常的な実践と計画的な授業研究をとおして、授業力の向上を図る。</li> </ul> </li> </ul>